

景気動向調査

全産業の業況 DI 値 マイナス幅が縮小

令和3年10～12月 中小企業景況調査 結果報告書

当所では、藤枝市内小規模事業所の経営動向把握するため、四半期ごとに景況調査を実施しています。

令和3年10～12月期の調査がまとまりましたので、概要を報告します。

※本調査は、製造業・建設業・卸売業・小売業・サービス業の5業種200社を対象に行っています。今回の回収率68.0%

【主要な表現について】

○業況判断：調査対象企業が自らの業績に下した判断。

○DI値：(増加・好転と回答した割合) - (減少・悪化と回答した割合) 悪化すればするほどDI値は▲(マイナス)になります。

管内全産業の業況

業況判断の動向(表1)：全産業での業況は、DI値▲25.2で前回(2021年7月～9月)より11.6ポイント改善。今回は製造・卸売・小売・サービス業でマイナス幅が縮小しました。

全産業売上高の推移：前回▲34.3ポイント(2021年7月～9月)から11ポイント改善しました。

サービス業が前回▲48.6から今回▲24.2ポイントでマイナス幅が縮小しました。

全産業資金繰りの動向：前回▲18.9ポイント(2021年7月～9月)から3.1ポイント改善しました。

全産業、依然として足踏み傾向を示しました。

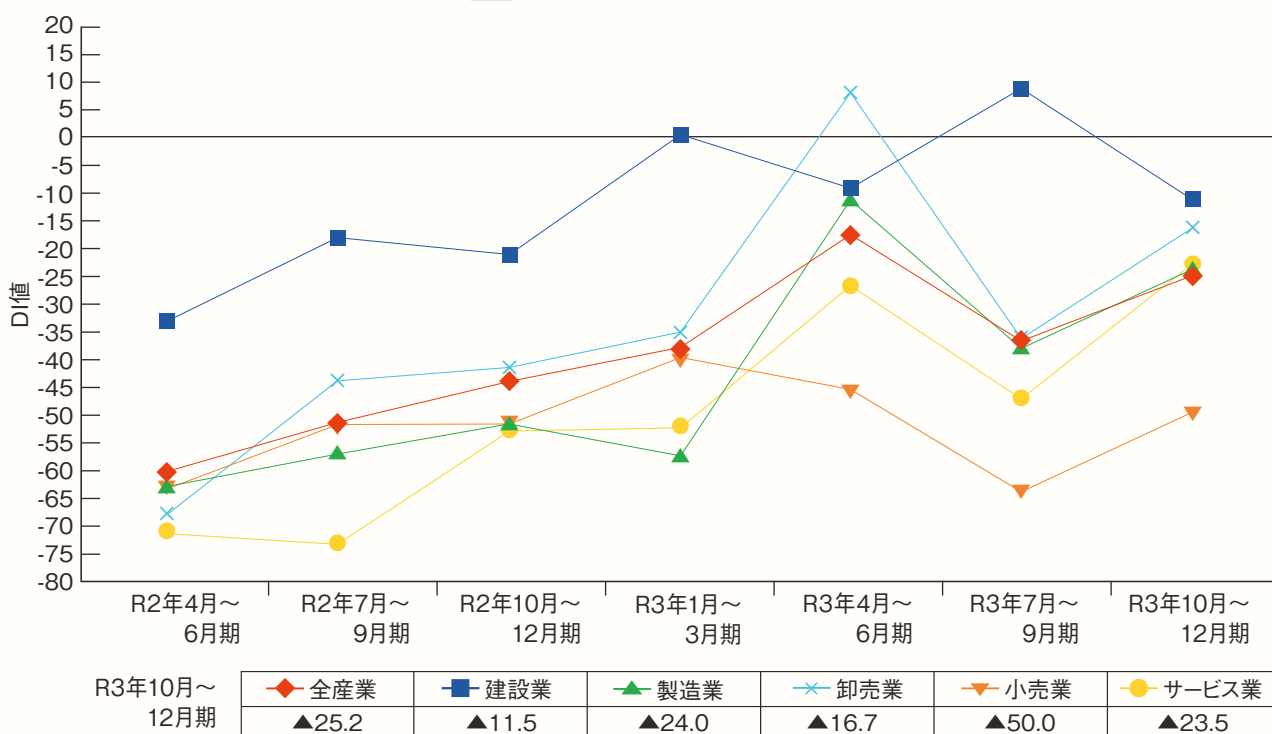
全産業採算の動向：前回▲41.2ポイント(2021年7月～9月)から3.4ポイント改善しました。

小売業▲57.7ポイント、消費者ニーズの変化への対応や仕入単価の上昇への対応が課題として挙げられました。

全産業雇用人員の動向：前回▲0.8ポイント(2021年7月～9月)から2.4ポイント減少しました。

製造業▲13ポイントとサービス業▲9.4ポイントで人手不足感が強まりました。

表1 業種別業況判断の動向



問合せ先 藤枝商工会議所 経営支援課 TEL: 054-641-2000